

ヨブと二本の木

聖書：創 2:9, 17. 啓 22:1-2, 14. ヨブ 1:1. 2:3. 4:7-8. 42:1-6. ローマ 8:5-6

I. 聖書の神聖な啓示によれば、二本の木、二つの源、二つの道、二つの原則、二つの終局があります：

- A. 命の木が表徴しているのは、人と神との関係における、人の命である三一の神です。善悪知識の木が表徴しているのは、神の御前で人の墮落における、人の死である悪魔サタン、すなわち、あの悪しき者です——創 2:9, 17. 詩 36:9 前半。
- B. 命の木は、命としての神を追い求めて、供給と享受を得る人の源です。善悪知識の木は、毒としてのサタンに従って、死と永遠の滅びへと至る人の源です——ヨハネ 1:4. 15:1. 8:44。
- C. 第一の道は、命の道、すなわち狭められている道であり、人に神を追い求めさせ、神を獲得させ、永遠の命の中で供給としての神を享受させます。第二の道は、死と善悪の道、すなわち幅広い道であり、人をサタンに従わせ、サタンの子供たちとならせます——マタイ 7:13-14. 使徒 9:2. I ヨハネ 3:10 前半。
- D. 第一の原則は、命の原則、すなわち神に依り頼む原則です。第二の原則は、死と善悪の原則、すなわち神から独立する原則です——創 4:3-4. エレミヤ 17:5-8. ヨハネ 15:5。
- E. 二つの終局は、二本の木、二つの源、二つの道、二つの原則の最終結果です：
 - 1. 神の命の道の終局は、命の水の都、すなわち新エルサレムです——啓 21:2, 9-11. 22:1-2。
 - 2. 死と善悪の道の終局は、火の池です—— 19:20. 20:10, 14-15。

II. 神の意図は、善悪知識の木の路線にあるヨブを得ることではなく、命の木の路線にあるヨブを得ることでした：

- A. ヨブと彼の友の論理は、善悪知識の路線にしがってしまいました。彼らには神聖な啓示がなく、神聖な命の経験もありませんでした——ヨブ 2:11 — 32:1。
- B. ヨブは彼の友のように、正しいか間違っているかの知識にとどまっており、神のエコノミーを知らませんでした——ヨブ 4:7-8：
 - 1. ヨブも彼の友も、神が人に定めた命の木の路線にいませんでした——創 2:9。
 - 2. 人と神との関係に関する彼らの観念は、善か悪か、正しいか間違っているかの上に建て上げられており、完全に善悪知識の原則にしてがっており、墮落した人の、人に属する倫理的な観念に完全にしがってしまいました——ヨブ 8:1-20。
- C. ヨブと彼の友は、善悪知識の木の領域にいました。神は彼らをこの領域の中から救い出して、命の木の領域の中へと入れようとしていました——ヨブ 1:1. 2:3. 19:10。
- D. ヨブを対処することでの神の意図は、ヨブを善悪の道から命の道に転向させる

ことでした。それは、ヨブが最も満ち満ちた程度にまで神を獲得するためでした—— 42:1-6。

Ⅲ. わたしたちは命の木のビジョンを持つ必要があります——創 2:9. 啓 22:1-2, 14 :

- A. 命の木が表徴しているのは、三一の神がご自身をキリストの中で、食物の形で彼の選ばれた人の中へと命として分与するという事です——創 2:9。
- B. 命の木は宇宙の中心です：
 - 1. 神の目的によれば、地は宇宙の中心であり、エデンの園は地の中心であり、命の木はエデンの園の中心です。ですから、宇宙は命の木を中心としています。
 - 2. 神と人にとって、命の木よりも中心的で重要なものはありません—— 3:22. 啓 22:14。
- C. 新約は、キリストが命の木のしるしの成就であることを啓示しています——ヨハネ 1:4. 15:5。
- D. ヨハネによる福音書が啓示しているすべてを含むキリストのすべての面は、命の木の結果です—— 6:48. 8:12. 10:11. 11:25. 14:6。
- E. 命の木を享受することは、神の贖われた民すべての永遠の分け前となります——啓 22:1-2, 14 :
 - 1. 命の木は、神が初めに人のために意図したことを実現して、永遠に至ります——創 1:26. 2:9。
 - 2. 命の木の実は、神の贖われた民の食物であり、永遠に至ります。これらの実は絶えず新鮮であり、毎月みのります——啓 22:2。

Ⅳ. 創世記第 2 章 9 節の二本の木（命の木と善悪知識の木）は、生活の二つの原則を表しています：

- A. 二本の木が示しているのは、クリスチャンが二つの異なる原則（正しいか間違っているかの原則あるいは命の原則）にしたがって生きることがあり得るということです—— I コリント 8:1。
- B. ヨブと彼の友は、倫理の領域にあるものを追い求めていましたが、わたしたちキリストにある信者は、神の領域にあるものを追い求めるべきです—— 15:28. エペソ 3:16-21。
- C. クリスチャンであることは、正しいか間違っているかの原則や、善悪の原則の事柄ではなく、命の事柄です—— I ヨハネ 5:11-13, 20 :
 - 1. わたしたちは主イエスを受け入れ、新しい命を獲得したとき、もう一つの生活の原則を得ました。それは命の原則です。もしわたしたちがこの原則を知らないなら、命の原則をわきに置き、正しいか間違っているかの原則に従うでしょう。
 - 2. わたしたちは実際生活において、命の木の路線におらず、善悪知識の木の路線にいるかもしれません——箴 16:25. 21:2。
 - 3. わたしたちは日常生活において、善悪知識の木の領域にいるべきではなく、命を与える霊の領域にいるべきです—— I コリント 15:45 後半. ローマ 8:2。

4. わたしたちは命の木の原則にしたがって生きるために、命の内なる感覚に従う必要があります——6節. エペソ 4:18-19. イザヤ 40:31 :
 - a. 消極面で、命の感覚は死の感覚です——ローマ 8:6 前半。
 - b. 積極面で、命の感覚は命と平安の感覚であり、強さ、満足、安息、明るさ、慰めを感じます——6節後半。
5. わたしたちは命の木の原則にしたがって生きるとき、善悪を顧慮するのではなく、命を顧慮し、正しいか間違っているかにしたがってではなく、命か死かにしたがって物事を識別します——創 2:9, 16-17. II コリント 11:3。

V. キリストにあるあらゆる真の信者は小型のエデンの園です。信者の霊の中には命の木としての神がおり、信者の肉の中には善悪知識の木としてのサタンがいます——創 2:9. ローマ 8:2, 5-6 :

- A. わたしたちが小型のエデンの園であるのは、神と人とサタンと関係のある三角の状況が、今わたしたちの内側にあるからです——創 1:27-29. 2:9, 16-17 :
 1. 人が墮落する前、善悪知識の木と命の木は、人の外側にありました——9, 16-17節。
 2. 墮落を通して、善悪知識の木はわたしたちの中にあります。再生を通して、命の木は今やわたしたちの中にあります。
 3. わたしたちの霊は三一の神とミングリングされており、肉となったわたしたちの体は、サタンの罪深い要素と混ざっています (I コリント 6:17. ローマ 5:12. 6:6, 12)。これはクリスチャンを小型のエデンの園にならせます。
- B. わたしたちは創世記第 2 章のアダムによって表されている者として、わたしたちの霊の中に命の木を持っており、わたしたちの肉の中に善悪知識の木を持っています——創 2:9. 啓 2:7 後半. 22:14 :
 1. わたしたちは善悪知識の木と接触するときはずっと、死にます。わたしたちは命の木と接触するときはずっと、命を得ます——ローマ 8:5-6, 10。
 2. もしわたしたちが善悪知識の木の側に立ち、サタンと接触するなら、わたしたちは悪魔サタンの命を生かし出し、その結果は死です——II コリント 11:3. ローマ 3:23. I ヨハネ 3:4。
 3. もしわたしたちが命の木の側に立ち、神と接触するなら、わたしたちは神を生かし出し、その結果は命です——ヨハネ 11:25. 14:6. 15:1, 4-5。
- C. ローマ第 8 章 5 節から 6 節は、小型のエデンの園を見せています。一方に肉と死があり、もう一方に霊と命があり、中間に思いがあります :
 1. わたしたちがローマ第 8 章から学ぶことは、わたしたちの存在をわたしたちの霊の中に住んでいる生ける方へと向け、彼と共にとどまる必要があるということです——ローマ 8:6 後半. I コリント 6:17。
 2. わたしたちは思いを霊に付けるとき、命、平安、光、慰め、力を持ちます。わたしたちの渇きはいやされ、わたしたちの飢えは満たされます——ローマ 8:5, 6 後半. ヨハネ 4:14. 7:37-38. マタイ 5:6。
 3. わたしたちは思いを霊に付けるとき、わたしたちの思いは命と平安に満ちま

す——ローマ 8:6 後半：

- a. わたしたちが平安を持つのは、わたしたちの外側の行為とわたしたちの内なる存在の間に不一致がないからです—— 6 節後半. イザヤ 9:6-7. 26:3。
- b. わたしたちが思いを霊に付けて語るとき、命がわたしたちの言葉に具体化されます。なぜなら、わたしたちは主と一つ霊であるからです——箴 18:21. ヨハネ 6:63. エペソ 4:29。

©2020 *Living Stream Ministry*